

社会教育の発展に貢献した 29 人を表彰

いつでも自由に学べる生涯学習の推進を支える

市は11月19日、令和3年度の社会教育功労者表彰式を市役所三橋庁舎で開きました。これは、長年の公民館活動などで、市の社会教育の発展に寄与した人を表彰するもの。今年度は29人を表彰しました。受賞した人は次のとおりです（敬称略）。

●公民館 古賀千春（柳河公民館専門委員）、下川瑞穂（同）、富重敦史（同）、塚本玄喜（同）、池上武美（東宮永団地地区公民館長）、平野賢次（西小路地区公民館長）、堤孝一（東宮永公民館専門委員）、小野村仁士（同）、山田洋二（同）、亀崎徳彦（同）、池上麻也子（同）、江口みね子（同）、藤木安夫（善内地区公民館長）、西村國政（舎人地区公民館長）、松藤求（下八丁下地区公民館長）、成清孝信（両開公民館専門委員）、古賀裕規（同）、今村靖彦（同）、松藤成次郎（同）、江崎一哉（同）、古賀学（沖田地区公民館長、青少年育成沖田支部長、昭代公民館専門委員）、本木武秀（野村地区公民館長、青少年育成野村支部長、昭代公民館専門委員）、中山巖（田脇地区公民館長、青少年育成田脇支部長、昭代公民館専門委員）、平田治人（豊原地区公民館運営委員、上塩塚東地区公



表彰式に出席した受賞者の皆さんと沖教育長（前列中央）

民館長、豊原校区公民館主事補）、高田久光（田尻地区公民館長）、野田廣行（有明校区公民館長、有明校区公民館副館長）、吉田新（六合校区公民館体育副部長、六合校区公民館会計責任者）、富安博喜（中棚町地区公民館長、六合校区公民館監事）、矢ヶ部隆人（紺屋町地区公民館長）

【問】市生涯学習課生涯学習係（☎ 77・8834）

皿垣小の吉山養護教諭が文部科学大臣表彰

健康を自ら守ることができる児童の育成に長年貢献

皿垣小学校（橋本秀博校長）の吉山祐子養護教諭が、学校保健の普及活動や人材育成に貢献したとして、学校保健功労者文部科学大臣表彰を受賞しました。吉山教諭は、保健の先生になって35年の大ベテラン。これまで、垂見小や豊原小、ニッ河小などで勤務し、児童の健康を守ってきました。

吉山教諭が特に心がけていることは、自分の健康を自分で守ることができる児童を育てること。けがをした児童がいたら、けがの手当てだけで終わらず、どうしてけがをしたのか、児童とより良い健康行動を一緒に考えるそうです。また、歯と口の健康にも力を入れ、フッ素洗口に取り組むなどして、むし歯がある児童の割合を減らすことにも貢献しました。市内の養護教諭のまとめ役として、若い教諭の育成にも注力。コロナ禍の児童への

対応でアドバイスを求められることも多いそうです。

11月5日に教育長に受賞を報告した吉山教諭は「これまで関わってくださった全ての人のおかげ。これからは子どもたちが自分の体や心を大切にできるような指導をしていきたい」と話しました。

【問】市学校教育課教育指導室（☎ 77・8851）



表彰を受ける吉山教諭

秋の叙勲

11月3日、秋の叙勲の受章者が発表され、長年の功績によって市内から3人が受章しました。



瑞宝小綬章
（地方自治功労）

44年にわたり
奉仕の精神貫く

元県企業管理者
佐藤 清治さん
塩塚、70歳

「県職員として44年間自分なりに頑張ってきたので素直にうれしい」と受章を喜ぶ佐藤さん。県民が幸せになる仕事をしようと22歳で飛び込んだ福岡県庁で、重要ポストの企画・地域振興部長まで上りつめました。昭和49年に福岡県に採用されて以来、主に企画畑を

渡り歩いてきた佐藤さん。37歳から3年間は、東京事務所で国の予算獲得に奔走し、5年間で25億円もの研究費の予算獲得の一翼を担いました。その後は、地域振興課長や秘書室長と常に同世代の先頭で昇進し続け、平成20年には企画・地域振興部長に昇格。平成23年から4年間は、特別職の企業管理者を務め上げました。「前向きに考えて、誠実に対応することを心がけて、県民の幸福を願った」と佐藤さんは県職員生活を振り返ります。その言葉通り、朝6時に家を出て夜11時に帰る電車通勤の毎日だったそうです。「外が明るい時間に柳川に帰らなかったから、家のそばにできた水路にしばらく気付かなかったよ」と笑います。最後に今後について尋ねると、「ボランティアなどで地域貢献しながら、ゆったりと暮らしたいね」と答えてくれました。



瑞宝双光章
（更生保護功労）

長年犯罪からの
更生に向き合う

保護司
村上 義法さん
細工町、75歳

33年以上、保護司として罪を犯した少年や少女の社会復帰に力を注いでいる村上さん。平成25年の藍綬褒章に続き2回目の受章となりました。「支えてくれた皆さんのおかげ」と村上さんは周囲への感謝を口にします。村上さんが保護司になったのは昭和63年。保護司の

先輩から誘われたのがきっかけでした。以降、「環境が変われば必ず人は立ち直れる」という強い信念を持ち続けながら、一人一人と真剣に向き合ってきた村上さん。暴走行為や薬物に手を染めた若者など、多いときは5人を担当していたそうです。「付き合うからには覚悟を持って。中途半端な気持ちだと相手は信頼してくれない」と力強く話す村上さん。夜遅くまで真剣に向き合った人とは、今でも交流があるそうです。そんな人柄は、多くの人からの信頼を集め、平成26年4月に柳川保護区保護司会会長、同年5月から2年間は県保護司連合会理事を務めました。

最後に村上さんは「保護司の担い手が年々高齢化している。ボランティアに頼る制度は時代に合わなくなっているのかもね」と更生保護の課題も語ってくれました。



瑞宝単光章
（消防功労）

先頭に立ち
市民の安全を守る

元市消防団長
古賀 金二さん
上宮永町、65歳

39年間、市の消防団員として市民の生命と財産を守ってきた古賀さん。受章を知ったときの感想を尋ねると、「まさか自分が受章できるとは思っていませんでしたので驚いたよ」と控えめな笑顔で語ってくれました。昭和55年、近所の先輩団員から誘われて市消防団4

分団に入団した古賀さん。入団して5、6年目のとき、沖端地区で死者が出たほど大きな火災が発生したそうです。「財産だけでなく命までも奪うのが火災の怖さ」と話す古賀さん。身を持って感じたからこそ、その言葉には力が入ります。平成24年の九州北部豪雨では、4分団の分団長として、地域の巡回や中山地区でのがれき搬出作業を先導。その後、平成25年に副団長、平成30年から令和2年まで団長を歴任しました。

「火災のサイレンを聞くと、団員は一刻も早く火を消すことに頭がいっぱいになりがち。消防団活動は危険と隣り合わせなので、一呼吸おいて冷静に行動してほしい」と後輩へエールを送る古賀さん。最後に「今まで迷惑かけてきた分、これからは奥さん孝行しないからね」と少し照れながら話してくれました。